

# 国立大学法人群馬大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、地域社会から世界にまで開かれた大学として社会に貢献することを基本理念に掲げている。第2期中期目標期間においては、教育を通じて、豊かな人間性を備え、広い視野と探求心を持ち、基礎知識に裏打ちされた深い専門性を有する人材を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、国際社会において活躍できるトップリーダーを育成するため、医学部生と理工学部生を対象としたグローバルフロンティアリーダー育成コースを開設し、外国人研究者と交流の機会を作り国際コミュニケーション能力を育成するとともに、早期大学院進学に向けて、学部段階から先端研究に接する環境を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### (戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、次のような戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる。

- 特色を活かしつつ、優れた研究教育拠点の形成等を目指した計画を定めており、平成25年度においては、研究面では、重粒子線治療研究を推進し、ビームスポットの大きさを1.4mm以下に縮小可能となることが期待される専用実験ポートの微動を0.5mm以下に抑える技術を開発し、教育面では、「重粒子線医工連携コース」の履修生に国際的な発表の場を経験させるため、「教育研究セミナー」や「国際シンポジウム」を開催している。
- 強みを有する統合腫瘍学や内分泌代謝学等の先端研究分野において、世界水準の研究力を強化するため、先端的な研究組織（未来先端研究イニシアティブ）を設置して、海外から優秀な外国人研究者を招へいし、国際共同研究を推進するとともに、機動的・戦略的な法人運営を行うため、教員を全学的に一元管理する「学術研究院」を設置する計画（平成25年度に中期計画を変更）を定めており、平成25年度においては、「未来先端研究機構」の設置に向けた各種規程の整備や研究者を配置するための海外研究機関との調整等を行っている。

### (機能強化に向けた取組状況)

これまで部局ごとに定員管理していた制度を廃止し、すべての教員を分野等の区別なく単一の組織である「学術研究院」に所属させることについて検討し、平成26年4月から実施することとしたほか、部局間の調整を主眼としていた従来の「大学運営会議」を廃止し、学長、理事及び学長が指名する執行役員による「執行役員会議」を平成26年4月から立ち上げることをしている。執行役員は、学長が学部長等に個別に、全学的課題への取組に対する意見を聴取した上で、直接指名しており、これら大学運営組織の整備とともに、教育研究評議会や教授会の審議事項を見直し、役員会等を中心とした運営体制を明確化している。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長のリーダーシップによる機動的・戦略的な法人運営を可能とするため、平成 26 年度から教員組織を学術研究院で一元管理することに伴い、全学の教員選考を執行役員会議で行うことを決定している。
- 平成 25 年 4 月以降に採用した全教員に 5 年の任期制を導入し、一定の評価を得た教員に対して任期の定めのない教員へと移行するテニュアトラック制と同様の人事制度を導入し、平成 25 年度においては、本制度により 7 名の教員を採用している。
- 育児や介護等のライフイベントと、教育・研究・業務との両立を支援するため、男女共同参画推進室を設置し、各部局と連携を図るため、男女共同参画推進委員会委員長が全学から室員を指名する体制を整備するとともに、各キャンパスに、相談や情報提供、託児などを行うスペースを設け、担当職員や専任のコーディネータを配置するなど、学内環境の整備を行ったほか、男女共同参画キックオフシンポジウムを開催している。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制)

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

#### (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

#### **(4) その他業務運営に関する重要目標**

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 過年度において、職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組を引き続き行うことが求められる。
- 平成 24 年度評価において評価委員会が課題として指摘した、個人情報の不適切な管理については、平成 25 年度においても、教員が児童の個人情報が記録された書類を紛失する事例があったことから、再発防止とともに個人情報保護に関するリスクマネジメントの強化に一層努めることが求められる。

#### **【評定】 中期計画の達成のためにはやや遅れている**

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと、個人情報の不適切な管理事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

## **II. 教育研究等の質の向上の状況**

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 国際社会において活躍できるトップリーダーを育成するため、医学部生と理工学部生を対象としたグローバルフロンティアリーダー育成コースを開設し、外国人研究者と交流の機会を作り国際コミュニケーション能力を育成するとともに、早期大学院進学に向けて、学部段階から先端研究に接する環境を整備し、平成 25 年度は、医学科 5 名・保健学科 1 名・理工学部 16 名を選抜している。
- ポストドクター・キャリア開発事業として、企業において活躍する高い科学技術能力を有する博士人材を育成することを目的に、就業事前教育を体系化し、学部生からポストドクターまでを対象に一貫したキャリア教育・就職支援システムの確立・長期インターンシップの支援を行っており、平成 25 年度においては、企業での実践活動に対応するための、MOT 講座・企画演習・自己表現スキル講座等を実施したほか、新たに外部機関を対象とした公開シンポジウムを開催しており (243 名参加)、このような取り組みを通して、博士人材受入れ企業は 91 社となり、今年度の受講生 7 名のうち、6 名が就職に至り、いずれも当初の目標 (50 社・5 名) を上回る成果を上げている。
- メンター・アドバイザーの配置や、採用者へのスタートアップ資金の配分など、在籍するテニュアトラック教員の研究環境の整備を継続するとともに、テニュアトラッ

ク教員2名を国際公募により採用している。テニュアトラック教員の研究成果として、クラウド量子コンピューティングに関する理論が、光を用いた量子コンピューターで実現され、その成果が「Nature Physics」誌に掲載されたほか、国際電子回路産業展にて、アカデミックプラザ賞を受賞している。テニュアトラック制度導入後、初めてのテニュア審査を実施し、1名の若手研究員にテニュアを付与している。

- 法医学・解剖学教育に大きな役割を果たしている死亡時画像診断（オートプシーイメージング：Ai）専用のCT装置を備えたAiセンターで、平成25年度より法医解剖の全例において、死亡時画像診断を実施することとし、このことにより解剖検査の精度向上が図られ、法医解剖医の養成により適した環境が整えられている。
- 強みをさらに発展させる組織として、未来先端研究機構を立ち上げ、重粒子線プロジェクトを核とした統合腫瘍学と、生体調節研究所を核とした内分泌代謝学の二つを柱として平成26年4月から運営することとし、海外から研究者を招いた研究室も立ち上げ、真にグローバルな環境下での研究推進を図り、群馬大学版WPIとして、世界のトップを目指し、先端研究を推進することとしている。
- 世界保健機関(WHO)から、保健学研究科におけるこれまでのチーム医療の普及と研究取組が評価され、この分野では日本で唯一の「WHO Collaborating Centre」として指定を受け、多職種連携教育研究研修センターを中心に、チーム医療の普及、保健人材育成のための世界的ネットワークの推進、アジア地域におけるトレーニングコースの開設等を行っている。
- 群馬県教育委員会と連携して、小学校における体育授業プログラムの開発、理数科教育に係る研究、「いじめ」問題の解決を通じた教育課題解決モデルの構築、特別支援教育の充実、ぐんまの子どもの基礎・基本習得プロジェクトの5テーマについて共同研究を実施し報告書「教育改革・群馬プロジェクト」を作成したほか、各教科で伸ばしたい資質・能力や、指導の基本等を示した指導用資料「はばたく群馬の指導プラン（実践の手引き）」を作成し、群馬県内の小・中学校の教員へ配布している。

### **共同利用・共同研究拠点関係**

- 生体調節研究所では、代謝シグナル研究展開センターにおいて、九州大学・韓国忠南大学等と、糖尿病・肥満に関する共同研究を行い、その成果の一部は、英国の学術専門誌「Nature Reviews Endocrinology」等へ掲載されている。具体的には、視床下部や脾臓における転写因子ATF3の役割を明らかにし、今後の糖尿病や肥満症に対する新しい治療薬開発のための候補因子としてのATF3の可能性を高めている等の成果が上がっている。

### **附属病院関係**

#### **（教育・研究面）**

- 臨床研究中核病院としての機能を向上させるために、「前橋・さいたまコア5治験病院（バーチャルメガホスピタル）」等の臨床研究・治験ネットワークを構築するとともに、平成25年度にトランスレーショナル・リサーチセンターを設置し、新規医療の開発研究を推進・支援する体制を整備している。

### **(診療面)**

- 重粒子線治療について、中国等からの外国人患者（10名）を受入れ、治療を行うとともに、タイ等からの外国人医療従事者を受入れ、重粒子線・放射線治療研修及びOJT（職場研修）を行ったほか、重粒子線治療に特化した国際研修として国際重粒子線がん治療トレーニングコースを開催し、13か国49名が参加している。

### **(運営面)**

- 現在105か国の外国人が暮らしている群馬県の医療の改善を図るため、外国人患者の診療に際し、医療情報部（現システム統合センター）が作製した一般診療用の質問項目（179の問診項目）を27言語に翻訳し、これを任意の2つの言語で表示する多言語問診システムとして、携帯型多機能端末で利用できる通訳アプリケーションソフトウェアの研究開発を行い、試験運用を開始しており、医療通訳者ボランティア育成講座を開講し、当該アプリケーションソフトウェアの利用促進を図っている。
- 平成24年度の収入実績（235億円）を基に平成25年度収入目標額（250億円）を設定した上で、月次で予算と実績を対比するなど管理に努めた結果、目標額を上回る254億円（対前年度比19億円増収）の収入実績を達成している。